

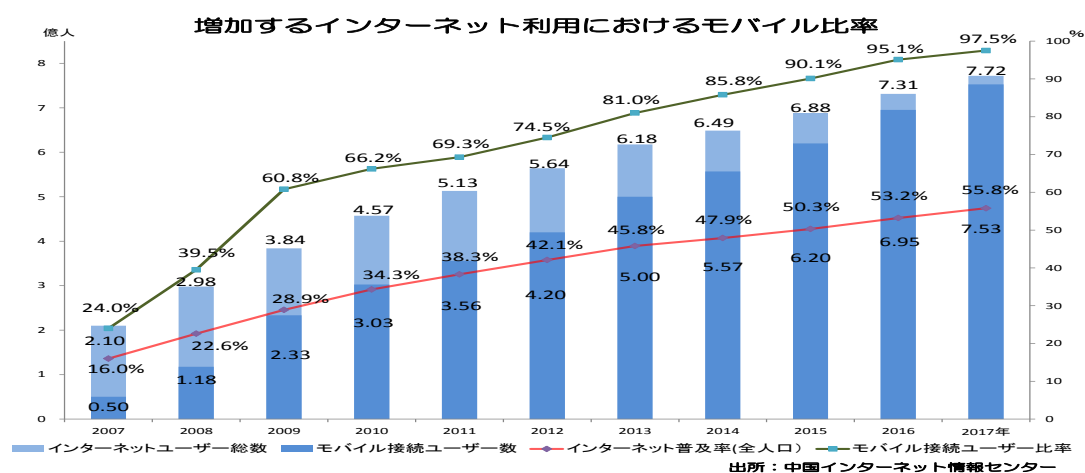
## 中国、スマホによるITサービス利用が急成長

### ◆インターネット利用人口が7.72億人（前年比5.6%増）に

2018年1月に中国インターネット情報センター（CNNIC）が発表した「第41次中国インターネット発展状況統計報告」によると17年末の中国のインターネット人口は7.72億人（前年比5.6%増）、普及率は55.8%（前年比2.6ポイント増）となった。日本のネット普及率83.5%（16年）と比べると低いが、これは中国の農村部では生産年齢人口該当者のほとんどが都市部に出稼ぎに出ており、情報弱者の老人と子供のみが残されていることから、農村部のネット普及率が27.0%にとどまっているためである。一方、都市部では73.0%（北京は約8割）となっており、先進国並になりつつあるといえそうだ。

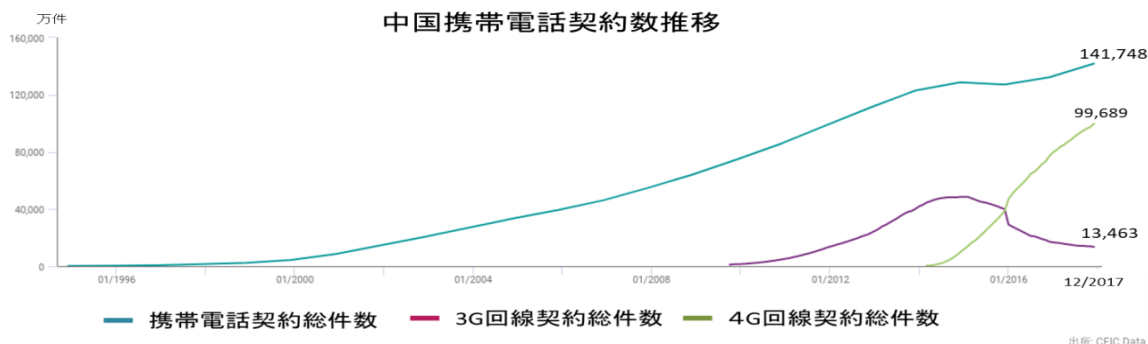
### ◆モバイルの利用者のほとんどがスマホを使用

ネットへのモバイルでの接続は7.53億人で利用者の97.5%がモバイルで接続している。中国の場合、既にフィーチャーフォンはほとんど販売されておらず、モバイルの利用者のほとんどはスマートフォン（スマホ）を利用しているといえる。（グラフ参照）



中国のモバイル通信の成長のスピードは早い。中国の携帯電話の利用開始は95年で本格的に普及したのは08年の北京オリンピック前後である。その後データ通信がスムーズに行える3Gが09年10月にサービスを開始し、現在の4Gは14年3月とかなり遅れている。ただ、実際には街中にあるフリーのWi-Fiサービスが充実し

ており、3Gのサービスが開始される以前から、ネットへの接続はモバイル環境で利用していたといえる。ちなみに日本の携帯電話のサービス開始は95年で、01年に3G、10年に4Gのサービスを開始している。



◆スマホサービスが充実し利用が拡大する中国、高齢者が課題となる日本

中国のスマホの利用用途をみると、チャットアプリが92.2%でほとんどのユーザーが使っており、Alipayなどのモバイル決済は70.0%、配車アプリは37.1%、シェア自転車が28.6%、投資信託などの理財サービスが16.7%となっている。なかでもシェア自転車は17年6月から半年で1.15億人（108.1%増）へ急増している。地方政府などのネット上でのサービスプラットフォームの利用率も16年が17.2%だったのに対し、17年は44.0%へ急増している。

一方日本の場合、総務省の平成29年版情報通信白書によると、ネットの端末別利用ではモバイル端末の利用が83.6%で、スマホは57.9%となっている。シニア層の60歳代のスマホ利用率は31.1%（20歳台は92.4%）にとどまる。

日本のネット利用目的で最も多いのが8割の「電子メールの送受信」で、モバイル決済の利用は6%（日銀調べ）にすぎない。チャットアプリの利用も51%となっており、年代別では60歳代が22%と他の世代（20代76%、30代70%、40代59%、50歳代45%）に比べて低い。60歳以上はメール、天気予報、ニュース、地図・交通機関の情報収集の利用が中心で、フィーチャーフォンでも利用可能なサービスにとどまっているのが現状のようだ。

中国で自転車のシェアサービスが急成長出来たのは、必要条件であるGPS、地図、決済手段の機能が装備されたIoT（モノのインターネット）活用のインフラとなるスマホが普及していたからである。65歳以上が4人に1人である人口構成から考えると、日本におけるスマホを活用した情報インフラの整備を推進する上で、シニア層がネックとなることも懸念される。

【森山博之】